

慶蔵院寺報

# 公孫樹

2026年3月発行

第170号

浄土宗慶蔵院

伊勢市小俣町元町 1211

TEL 0596 (22) 3726



山村御流生け花

スイートピーとユキヤナギ

画 山寄淑子

春彼岸のお塔婆、お参りできない場合でも、

二十日の午前十一時まで、

本堂まで、取りに来ていただけないでしょうか

ふた昔も前になる。彼岸やお盆の塔婆回向、檀家の皆さんが寺に足を運び、塔婆が読み上げられると、焼香をして、担当の寺世話人さんから塔婆を渡していただいたものだった。自分の番が来るまで、少々の談笑も交えながら、参詣者皆で手を合わせてお参りをした。朝から夕方まで、時間はゆっくりと流れていた。

現在の法要時間は一時間です。最近の春彼岸法要は、来られた方から順に、桜餅とお茶を出させていただきました。参加者全員でお経と念仏を称え、回向し、焼香します。10年前から、男性詠唱隊のご詠歌。詠唱が加わり、ありがたい、慶蔵院独自の法要がされるようになったと喜んでいます。檀家中の皆さんに、体験していただきたいと願っています。ところが、法要への参加が年々減少しています。お塔婆はたくさん申し込んでいただけるのですが、すべて、寺世話人さんまかせになってしまっています。せめて塔婆だけでも、各家の誰かでお寺まで取りにきてもらえないでしょうか。

寺世話人さんは、月一回の新聞配布、護持会費の集金、年三回の塔婆の申込書の配布、集金、そして塔婆のお届けを引き受けてくれています。苦勞話をお聞きすると「塔婆を取りに来てくれる方が少ないので、お塔婆のお届けをたくさんしなければなりません。重くて一番大変…」とのこと。何とか、檀家中のみなさんに、このことを考えていただき、左記の対応をお願いできないでしょうか。

記

この春の彼岸会法要には、お寺にお参りいただくか、お参りが無理でも、十一時前に、本堂まで塔婆を、受け取りに来ていただけないでしょうか。取り来ることができない方のみ、寺世話さんをお願いして、お世話いただくようお願いしていただけないでしょうか。よろしく願います。

お葬儀ができた場合は、何時でもかまいません、最初に、慶蔵院にご連絡ください。電話 22-3726

# 3月の行事予定



4日(水)	写経会	午前 10 時～ 本堂にて
9日(月)	華道「山村御流」教室 講師 小森清真先生	午後 1 時半～ 参加費 2000 円+花代
11日(水)	・羊毛フェルト教室 講師 monmo 先生 ・男性詠唱隊 ・落語会「いちご亭」	午後 1 時～3 時 一会館にて 参加費 1500 円 午後 1 時半～3 時 本堂にて 午後 7 時～ 一会館にて
12日(木)	ともいき英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前 10 時～11 時半 午後 1 時半～3 時 一会館にて 参加費 1 回 1000 円
18日(水)	健康教室 講師 馬場久美子先生	午後 1 時～3 時 本堂にて 参加費 500 円
20日(金)	春彼岸会・塔婆回向	午前 10 時～11 時
24日(火)	祈願とお加持・地藏堂開帳	1 2 時～银杏おにぎり 祈願とお加持は 1 時～
25日(水)	戦没者慰霊・平和の鐘 地藏講	午前 8 時頃 午後 1 時半～
13・27日(金)	茶道教室 講師 河井宗恵先生 樋口宗恵先生	午後 7 時～子ども茶道教室 午後 7 時半～大人茶道教室 参加費 大人 1500 円 一会館にて

## 慶蔵院豆知識 part2

34

### UNって何のこと?

英語のユニテッド・ネーションの略で直訳すると連合国になります。日本では意識されて国際連合として使われています。一九四二年の連合国共同宣言でルースベルトが提案した言葉だそうです。そもそもUNは、一九四五年八月に日本が降伏し第二次世界大戦が終結した後、連合国軍の五大国(アメリカ・イギリス・フランス・ソ連・中華民国)が主体となって、国際社会の平和の維持を担うことを目的に一九四五年十月に発足した機関です。私には国連という言葉がUNの本質をばやかしているような気がします。

次に安全保障理事会の常任理事国についてですが、連合国軍の五大国が担っており、拒否権を持っています(有斐閣の国際条約集二〇二五版には、今もこの内容で載っています)。ところが現実には、中華民国ではなく、中華人民共和国に代わっています。この国は一九四六年から一九四九年の国共内戦を経て中華民国に勝利し成立した国ですので、第二次世界大戦の戦勝国ではないのでは? ではなぜか。かの国がアルバーニア(ギリシアの北にあるアドリア海に面したその当時共産主義の国を利用して世界に外交攻勢をかけ、一九七一年十月二十五日に採択された第二六回国連総会二七五八号決議で中国代表権問題が解決し、中華民国と入れ替わったのです。同時に国連加盟しました(賛成七六、反対三五、棄権一七で成立)。又、中国(チャイナ)というコトバの手品で世界を錯覚させたこと、アメリカがベトナム戦争終結のため、中国に譲歩した事も一因です。あと第一〇七条敵国に関する行動も、一九九五年の総会決議で死文化したが未だ記載されています。高市首相発言の中国の批判はこれに基づいています。(文 麻畑公生)

## 住職の健康回復への道のり(49)

二月十五日(日)、涅槃会が行われていた時のことです。急に喉に網のようなものがかかった感じがしました。しばらくして声がかすれ出し、出にくくなりまりました。十八日(水)、勤行を済ませた後、床に就くことになりました。三時間歩ほど眠ったと思います。「お葬式が入った…」と起こされました。

葬儀は、慶蔵院にご遺体を安置し、水・木・金の三日間で、枕経・通夜・葬儀・初七日を済ませる日程が組まれ、本堂にて実施されました。咳がかなり厳しくなる中、金曜日の四時、八尾に治療に出ました。喉に専門治療の灸をしていただきました。二十一日(土)、二つの法事の務めを果たし、二十二日(日)は、思い切って一日中、床に就きました。咳きは痰を絡めたものに代わってきていますが、ひっきりなしに出ます。時おり痰も上がってきます。鼻も詰まります。その体調を押して二十三日(月)は、奈良の植村牧場への訪問の予定を強行しました。二十四日(火)、地藏堂の開帳日、ご祈祷は一回だけにしていただき、二十五日(水)、戦没者慰霊と平和の鐘の鳴鐘後、八尾の施療に出ました。

咳はかなり落ち着き、回復への感覚が出てきました。原因は分かりませんが、身体から毒素が抜けつつある感じでした。日差しが差し込んできたようです。

春彼岸悟りの道を聴く法話

奥田悦生

(「知恩」誌二月号「柳壇」に掲載)

慶蔵院

花まつり

5月6日(土)

午前十時～十一時半

久しぶりに林千智先生(元勢和図書館司書)に来ていただけることになりました。先日、林先生の「健康寿命を延ばす音読講座」に出させていただきました。よかったです。これと併せて、子ども会でも聞かせていただいた、わらべうた、絵本の紹介、ほっこりするお話など、たっぷりと聞かせていただきます。

今年はベトナムの甘茶も差し入れていただきましたので、日本の法要で使われる甘茶と一緒に用意いたします。飲み比べてみてください。



三月の掲示板

ウソは強く語られ、ホントウのことは、静かに語られる。

どこかで喋ったり書いたりもしてきたが、高校の教師であった時のこと。トイレでタバコを吸っている生徒を見つけた。生徒は、私に見つかっても、平然と水洗便所にタバコを流してしまっ、私に、大声で、すごんだ。  
「俺がタバコを吸っていたという証拠は何処にあんのや。あんたの見間違えと違うんか。どこに目ついとんのや…」と。  
今の私でもそうするかもしれない。静かに諭すどころか、生徒の胸ぐらを両手で締め上げ「お前の精神はどうなっとなのや。ふざけるな。許さん。」そのまま、空き教室まで引きずっていった。話すことができたのは落ち着いてからのことだった。

☆お知らせ☆

春彼岸塔婆申し込みは三月八日まで  
に寺世話さん又は慶蔵院までお申し込みください。

三月二十日(金) 一〇時

春彼岸塔婆供養法要

お茶と桜餅をどうぞ!!



落語会「いちご亭」  
十一日(水) 午後七時～慶蔵院「一会館」にて  
出演 法話 慶蔵院住職 紙切り 安楽亭小東風  
落語 南遊亭栄歌 安楽亭東風

安楽亭小東風(小学三年・晋之介君)の紙切りも好評です。お楽しみに!!





すべての人が

おどやかに おかしく

くぐりてゆけるように

人が何を必要と

しているのか...

よく聞いて

よく理解して

まず受け入れよう。

あらゆることにおいて

「自分をあとまわしにして...と

言うてはなが。

ゆかり合うことからすべてが

はじまると信じて...

格也

先日「お願いが有ります」と、寺に來られたから、「奥さんが怖がっているので、慶藏院で働いている人を何とかしてほしい...」とのこと。

「事情は分かりました。でも怖がることなんてないですよ。みんなに大声で挨拶したり、親切に声をかけたりしている人ですから...。明日、話をして、その結果をお電話でお伝えします」と約束。

月曜から金曜まで、午前中三時間、境内や駐車場、前の畑の掃除をもらっている二人に來てもらって話を聞いた。

「これまでも挨拶をしていた。この間、大きなゴミ袋を持って歩いているので、声をかけた。助けたろうと思ったが、逃げて行った。昨日また見かけたので、こないだはびっくりさせてすみませんと、謝ろうと思った...」と語ってくれた。この内容を電話で伝えた。

しかしその夜、夫婦が訪ねてきた。奥さん自身から、「私を受けている印象は、電話で説明されたようなものではない。怖いのです。朝の出勤時間に顔を合わさなくてよいように、勤務時間を変えてください。」と。即座に「それはあり得ない」と返答しつつ、「少し時間をかけてもらったら十分わかってもらえるとおもいますが...」と言つと「じゃ、私が変われというんですか」との主張に、「わかりました。明日、三人で話し合ってみます」と話を打ち切った。

翌朝、改めて、「他に声をかけた内容を思い出してほしい...」と聞くと、「長いブーツやな」とか「ぬきたそうな服やな...」とも言ったという。どうも問題はここにありそうだ。話をまとめた。「相手の受け止め方を私たちがどうこうすることはできない。しかし怖がってしまったというわけだから、こちらが一步譲るのではないか...。顔を合わさないように、こちらの勤務時間の変更を決めたい...」と提案した。